

2021年2月15日

2020年度

「第22回 西日本国際財団アジア貢献賞」・「第16回 西日本国際財団アジア未来大賞」 受賞者決定および授賞式開催のお知らせ

公益財団法人 西日本国際財団（理事長 久保田 勇夫）は、アジアとの国際交流に貢献している九州・沖縄・山口地域の団体・個人等を表彰しています。

このたび、標記各賞について下記のとおり受賞者が決定しましたので、お知らせします。受賞者には、賞状と副賞を贈呈します。

なお、各賞の授賞式を2021年3月2日（火）に開催しますので、併せてお知らせします。

記

1. 受賞者

（1）「第22回 西日本国際財団 アジア貢献賞」

受賞者	活動地域	分野	活動内容
NPO 法人国際ボランティア IMAYA (理事長 岩本 功)	ベトナム 山口県 (周南市)	医療・保健 ・福祉支援	26年以上にわたり、ベトナムへの医師派遣など医療支援活動を継続している。ベトナム戦争による肢体不自由者へ車椅子を提供しており、2003年から2019年までに401台を寄贈した。現地の医療人材の育成支援にも取り組んでいる。
砂川 元 (沖縄・ラオス国口唇口蓋 裂患者支援センター 顧問)	ラオス 沖縄県 (那覇市)	医療・保健 支援	琉球大学医学部在任中から20年以上にわたり、ラオスにおける先天性口唇口蓋裂患者に対し、2019年までに延べ347人を無償で手術・治療した。治療技術の現地移転にも取り組んでいる。
日韓障害者交流協会 (主宰者・事務局長 貴島 純孝)	韓国 福岡県 (福岡市)	国際交流	1987年からスポーツ・文化を通じた日韓障害者の福祉向上、国際交流などを目的に活動している。中でも1991年に始まった「稲尾杯日韓親善障害者ソフトボール大会」は間もなく30回を迎える。さまざまな分野で、障害者が自ら企画運営する草の根の交流事業を進めている。

（2）「第16回 西日本国際財団 アジア未来大賞」(※「アジア Kids 大賞」から名称変更しました)

受賞団体	活動地域	活動内容
上毛町 (上毛町長 坪根 秀介)	タイ 福岡県 (築上郡上毛町)	旧村時代から国際的視野を持った青少年育成を目的に、世界4か国と小学生の交流事業を進めてきた。2015年度からはタイ国の最古の大学であるチュラロンコーン大学の附属小学校と、町立4小学校で児童の相互訪問などを進めて、2017年には姉妹校提携協定を結んだ。
長崎親善人形の会 (瓊子の会) (会長 山下 昭子)	カンボジア 長崎県 (長崎市)	「長崎瓊子 ^(注1) の里帰り展」の精神を生かし、国際親善を進めようと、2004年にカンボジアに小学校の建物を新築し、「タマコスクール」と名付けて贈呈した。その後、図書や学用品も贈っている。2007年からは、「キッズゲルニカ ^(注2) 」制作活動にも取り組んでいる。

注釈は次ページをご覧ください

(注1)「長崎瓊子」について

「長崎瓊子」は、1927年、実業家・渋沢栄一と米国の親日家・ギューリック博士により行われた「日米親善人形交流」において、長崎県から米国への答礼として贈られた人形で、長く行方不明でしたが、2000年に米国で発見されました。長崎市民の間で、この人形を地元で展示しようとの気運が高まり、2003年「長崎瓊子の里帰り展」が開催されました。

(注2)「キッズゲルニカ」について

「ゲルニカ」は、ピカソが1937年に製作した反戦の象徴とされる壁画のことで、「キッズゲルニカ」とは、「ゲルニカ」と同サイズ（縦3.5m×横7.8m）のキャンバスに子どもたちが想像する「平和」をテーマとした絵を描く活動であり、1995年に世界各国で開始され、これまでに世界約70か国で展開されました。「長崎親善人形の会」はこの活動に参加しており、「キッズゲルニカ」製作と長崎での展覧会を14年間継続し、製作した壁画は延べ68点を数えます。

2. 授賞式 開催概要

「アジア貢献賞・アジア未来大賞授賞式」を以下のとおり開催します。なお、今年度の授賞式は、新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、出席者を受賞者および関係者等に限定し、規模を縮小して開催します。

日 時	2021年3月2日（火）16:00～17:00（受付開始15:30）
会 場	ホテル日航福岡 3階「都久志の間」（福岡市博多区博多駅前2-18-25）
主 催	公益財団法人 西日本国際財団
共 催	西日本シティ銀行
後 援	西日本フィナンシャルホールディングス

以 上

本件に関するお問い合わせ先
公益財団法人 西日本国際財団 事務局 しんや せいけ 新屋・清家
TEL 092-476-2154